

こもれば 24 号 五感で感じよう(春さがし) 2019.3.2 10時00分~12時00分

参加者 14人

コース:管理事務所-子供の国-アジサイウツギルート-増長天-焼米ヶ原-子供の国-
管理事務所

今回は“春さがし”暖冬の影響でお馴染みのホトケノザやオオイヌノフグリなどあちこちで見かけるようになってきました。いつものように県民の森管理事務所前に集合、今回は子供たちの参加が多く賑やかでした。

早速カシワの木周辺でロゼット状になったオオバコやセイヨウタンポポの根生葉や幼い葉の様子を観察しました。

ひとつ:根生葉(こんせいよう)は地面に張り付くように葉がすべて根際から出ている葉をいいます。ロゼットは葉の重なっている様子がバラ(ローズ)の花に見えることからいいます。

子供の国から焼米ヶ原まで途中春をさがしながらゆっくり歩きました。チチコグサやセンボンヤリ、フデリンドウなどの春待姿、ネコノメソウには花がついていました、早春かな。オオバヤシャブシの木には雄花と雌花と昨秋になった実が混在、これも春待姿。ハゼノキにはメジロの群れ、いいね。

焼米ヶ原ではロープで一区画作りその中に生えている植物を同定、スズメノヤリ、ブタナ、ノアザミ、スイバ、スマレ、カタバミ、タチツボスミレ、ヨモギの根生葉や幼葉を観察しました。帰りに子供の国奥の湿地でカエルの卵を観察、オタマジャクシになりかけていました。図鑑などで調べましたらニホンアカガエルかヤマアカガエルの卵のようでした。子供たちはそれぞれにお母さんと一緒に観察したり、図鑑をめくって今回も名助手役になったり、元気よく走り回ったりと自然を満喫している様子でした。早春とも思える穏やかな一日、春近しをたくさん感じた一日でした。

(参加者の皆さんとふりかえり)

●フデリンドウの芽立ちを見つけた●たくさんの草が生き生きとしていた●目に映る緑色が増してきた●小さなヨモギを見つけた●スマレやメジロなど見られてよかった●スマレやカエルの卵を見た●ネコノメソウを見つけた



報告:H 写真協力:K